

編集発行人

鹿児島大学医学部附属保健婦学校
鹿児島大学医療技術短期大学部専攻科地域看護学特別専攻
鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻
同窓会(しおさい会)

事務局

〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35-1
鹿児島大学医学部保健学科
地域看護・看護情報学講座内
連絡先 会長 藤野 瑠美
電話 [REDACTED]

第17回 しおさい会 総会



新年を迎え、皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

私は、昨年八月の総会におきまして、会長をお引き受けいたしました。これまで先輩方がつないでくださったしおさい会への想いを大切にして、役員の方々の協力を頂きながら、できる限り頑張らせていただきます。今後ともこれまで同様、ご指導とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

今年は、東日本大震災のさらなる復興が求められており、現地に赴き復興支援に取り組んでいる同窓会会員の方も多数おられ、私たちも災害を忘ることなく被災地、被災者へ心を寄せていかなければ、と思います。

現在、しおさい会会員は一、二三四名で、内九八九名の方々へ会報や総会案内の発送を行っております。一方、二割の方々には会の活動報告ができない状況にあり



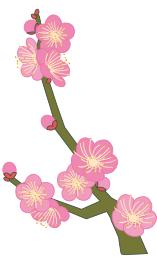
あ
い
さ
つ
会長 藤野 瑠美
(S 46年卒)

ます。クラス連絡員を中心に、友人知人の情報を集め、住所確認をお願いしますが、今後多くの会員へ会報や総会案内が発送していくように、皆さまからの情報の提供をお願いします。

城山観光ホテルで二年毎に開催される総会は、特に、昭和四十九年まで城山キャンパスで過ごされた方々にとつて、懐かしい思い出が甦るものとなるようです。同級生は勿論、恩師、先輩、後輩が共通の繋がりを楽しみながら、語り合つている姿は感動的です。

今回は、世代間の交流を深めていくよう、工夫しました。会員から「初めて参加してみて良かつた」「楽しくて元気が出たよ、ぜひ次回も参加したい」と嬉しい声を頂きました。自分たちが楽しく元気になる会になるよう、これからも参加の声掛けをお願いいたします、また、会員の活躍の様子、会へのご意見などもお寄せ頂きますよう重ねてお願いいたします。

最後になりましたが、皆様にとつて健康で幸せな一年でありますようお祈りいたします。



第17回 同窓会総会報告

第29号

平成二十五年八月三日（土）
 平成二十五年八月三日（土）
 城山観光ホテルにて、第十七回
 同窓会を開催し、一一四名の
 参加がありました。議長には
 昭和五十年卒 新塘久美子さ
 んが選出され、会順に従い議
 事を進めました。

事業報告として、第五回「じ
 おさい会セミナー」の開催、
 保健師養成課程の選択制導入
 における養成数枠拡大に向け
 て五五〇名の署名を集めた署
 名請願活動、ホームページの
 作成については、鹿児島大学
 看護同窓会「つめ草会」との
 連携も視野に入れ、今後も検
 討していくこととなりました。
 また、同窓会名簿の取り扱い
 については、事務局が名簿管
 理を行なうが、各会員への配布
 は行わないことが決定されま
 した。

山元郁子会員より、会員數
 に比べ、会報発送数が少ない
 ことや、会費納入が会報発送
 数の約半数であることに対し
 質疑があり、事務局より、会
 報未発送者は住所不明者であ
 ることや、会費納入に対する
 質疑があることに対し、会
 員自らも未納者に対する
 会費納入への声かけをして
 ほしいことの要請がありまし

た。

事業報告として、第五回「じ
 おさい会セミナー」の開催、
 保健師養成課程の選択制導入
 における養成数枠拡大に向け
 て五五〇名の署名を集めた署
 名請願活動、ホームページの
 作成については、鹿児島大学
 看護同窓会「つめ草会」との
 連携も視野に入れ、今後も検
 討していくこととなりました。
 また、同窓会名簿の取り扱い
 については、事務局が名簿管
 理を行なうが、各会員への配布
 は行わないことが決定されま
 した。

所長 現鹿児島大学医学部保
 健学科 特任教授の財部マチ
 子氏と鹿児島大学医学部保
 健師活動の可能性を探る」
 の活動を振り返りながら、そ
 の熱い保健師魂を力強く語っ
 ていただきました。

懇親会では、お忙しい中、
 松下俊夫先生、鹿島友義先生、
 山元篤朗先生、鉢之原晶先生、
 波多野浩道先生など、九名の
 先生方のご出席をいただきま
 した。また、平成六年卒の窪
 真由美さんと栗脇ひとみさん
 の爽やかな司会のもと、保健
 学科二期生による、クラリネ
 ット演奏を皮切りに、昭和五
 十年卒の還暦組の皆さんとの
 唱など、様々な趣向を凝らし
 た出し物が披露され、時を忘
 れて旧交を温めました。

総会での再会を楽しみにして
 おります。

（文責 田中（み）・前野）

一 平成二十三・二十四年度報告		二 平成二十五・二十六年度計画	
事業報告	事業計画	事業報告	事業計划
(1) 同窓会総会の開催 二七・二八号の発行	(2) 同窓会通信「じおさい」 発行年1回	(1) 同窓会通信「じおさい」 発行年1回	(2) 同窓会通信「じおさい」 発行年1回
(3) 保健師養成課程の選択制導入における養成数枠拡大へ向けての「じおさい」活動	(3) 保健師養成課程の選択制導入における養成数枠拡大へ向けての「じおさい」活動	(3) 研修会（平成二五年八月 三十日）	(3) 研修会（平成二六年八月三十日）
(4) ホームページ作成の検討 （4）ホームページ作成の検討	(5) 東日本大震災義援金について （5）東日本大震災義援金について	(4) 同窓会新入会員推進活動 （4）同窓会新入会員推進活動	(5) 同窓会新入会員推進活動 （5）同窓会新入会員推進活動
(6) 同窓会新入会員推進活動 （6）同窓会新入会員推進活動	(7) 研修会 （7）研修会	(6) 鹿児島大学看護同窓会「つ め草会」との連携を図る	(6) 鹿児島大学看護同窓会「つ め草会」との連携を図る
(8) 運営に関する会議 （8）運営に関する会議	(1) 研員会 （1）研員会	(7) 予算 （7）予算	(7) 予算 （7）予算
(9) 鹿児島大学医学部保健学 科看護学専攻同窓会との連携を図る （9）鹿児島大学医学部保健学 科看護学専攻同窓会との連携を図る	(2) 会員 （2）会員	(8) 退任役員 （8）退任役員	(8) 退任役員 （8）退任役員
3 うち新規会員 平成二四年度 決算報告 （別紙参照）	2 うち会員 （平成二五年六月三十日現在） うち会報等発送者数 九八九名 一二三四名 十五名 二二名	3 新役員 （別紙参照） 会長 新藤 瑞美 副会長 新藤 久美子 書記 前田 みゆき 野中 律江	2 新役員 （別紙参照） 会長 新藤 瑞美 副会長 新藤 久美子 書記 前田 みゆき 野中 律江



保健師の“魂”脈々

監事	会計
田平上中森満瀬永田帖	
中田林村留口山中佐	
博裕周聰隆御友廣千桂	
美子英子子江子夏子	

73歳差超え交流

▲南日本新聞 平成二十五年八月八日（木）掲載

世代を経て繋り合う「じおさい会」会員と大学生ら
 一起に城山観光ホテルで開催された同窓会。鹿児島大学医学部保健学科
 二期生による演奏が披露され、懇親会では、保健師として活躍する窪
 真由美さんと栗脇ひとみさんとの握手が話題となっていた。

「この間は、保健師として活躍する窪真由美さんと栗脇ひとみさん
 との握手が印象的でした。」と、前田会長は語る。窪さんは、昭和五十年卒業
 生として、窪は「保健師として活躍する窪真由美さん」として、栗脇さんは「保健師として活躍する栗脇ひとみさん」として握手が行われた。前田は、「窪さんと栗脇さんは、保健師として活躍する二人です」と笑顔で語った。

「この間は、保健師として活躍する窪真由美さんと栗脇ひとみさん
 との握手が印象的でした。」と、前田は語る。窪さんは、「保健師として活躍する窪真由美さん」として、栗脇さんは「保健師として活躍する栗脇ひとみさん」として握手が行われた。前田は、「窪さんと栗脇さんは、保健師として活躍する二人です」と笑顔で語った。

別 表

平成23・24年度 決算書

【収 入】

(単位:円)

科 目	予 算 額	収 入 济 額	増 減 額	備 考
会 費	1,200,000	1,215,500	15,500	会費等(497名)
雑 収 入	30,000	530	△29,470	利息、寄付等
繰 越 金	3,048,641	3,048,641	0	前期からの繰越金
計	4,278,641	4,264,671	△13,970	

(△減)

【支 出】

(単位:円)

科 目	予 算 額	支 出 济 額	差 引 額	備 考
会 議 費	1,100,000	707,339	392,661	総会、役員会、連絡委員会
研 修 費	100,000	33,000	67,000	研修会及びしおさいセミナー講師謝金
印 刷 費	600,000	257,485	342,515	会報「しおさい」、宛名シール 他
事 務 費	200,000	98,257	101,743	事務用品、会務手当
通 信 費	450,000	290,370	159,630	会報「しおさい」送料
振 込 手 数 料	50,000	46,860	3,140	
雑 費	100,000	92,000	8,000	大学との連携 大学の行事出席
予 備 費	1,678,641	0	1,678,641	
計	4,278,641	1,525,311	2,753,330	

収 入 合 計 4,264,671円

支 出 合 計 1,525,311円

差 引 残 高 2,739,360円

平成 25年 8月3日提出

平成 25・26年度 予 算

【収 入】

(単位:円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減 額	備 考
会 費	1,200,000	1,200,000	0	入会金、会費
雑 収 入	15,000	30,000	△15,000	利子等
繰 越 金	2,739,360	3,048,641	△309,281	前期からの繰越金
計	3,954,360	4,278,641	△324,281	

(△減)

【支 出】

(単位:円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減 額	備 考
会 議 費	1,000,000	1,100,000	△100,000	総会、役員会、連絡委員会
研 修 費	100,000	100,000	0	研修会及びしおさいセミナー講師謝金
印 刷 費	400,000	600,000	△200,000	会報「しおさい」、宛名シール 他
事 務 費	100,000	200,000	△100,000	事務用品、会務手当 他
通 信 費	450,000	450,000	0	会報「しおさい」送料 他
振 込 手 数 料	50,000	50,000	0	
雑 費	100,000	100,000	0	大学との連携 大学の行事出席
予 備 費	1,754,360	1,678,641	75,719	
計	3,954,360	4,278,641	△324,281	

(△減)

平成 25年 8月3日提出

しおさい会

会 長 梅 木 秀 子

**しおさい会
研修会 「保健師活動の可能性を探る」**

テーマ



講師

鹿児島大学医学部
保健学科 特任教授
財部 マチ子氏 (S50卒)

プロフィール

昭和五十年三月
鹿児島大学病院付属保健婦学校卒業

昭和五十年四月
鹿児島市保健師に採用。保健所、保健センター、少年・自然の家、
保健予防課感染症対策係

平成二十五年三月
北部保健センター所長を最後に定年退職

鹿児島大学医学部保健学科 特任教授(十一ヶ月間)



講師

鹿児島大学医学部
保健学科 助教
森 隆子氏 (H16卒)

プロフィール

平成十六年三月
鹿児島大学医学部保健学科卒業

平成十八年三月
鹿児島大学大学院保健学研究科保健学専攻修士課程修了

平成十八年四月
鹿児島市にて嘱託職員(保健師・一年六ヶ月)

平成十九年十一月
鹿児島大学医学部保健学科(助教)

現在
鹿児島大学大学院保健学研究科保健学専攻博士後期課程
在学中

総会に統一して研修会では、こと、予防的介入の重視、地域活動の本質であると提示された。任教の財部マチ子氏と、同じく保健学科助教の森隆子氏に「保健師活動の可能性を探る」をテーマに講演をいたしました。

財部氏には、鹿児島市というフィールドを選択し、三十年間の保健師活動を終えて、思うことを振り返つていただけました。

三十八年間を振り返った時に、一番心に残っていることは、現場や先輩方の背中であつたと思う。心に迫る先輩保健師の指導は、熱く、優しく、そして厳しく、保健師を育てるという気概にあふれていた。また、独自の活動や調査研究等、自分たちが歩んできた保健師活動に誇りを持つていた。そんな先輩方から、仕事のだけでなく、箸の上げ下ろしまでの多くの事を学んだ。

今、社会が求める保健師とは、東日本大震災後、全国から保健師たちが集まり、たつた一夜ですぐに活動ができるといふ実例をもとに、保健師としての質、趣旨が分かつてすぐ活動に移せる保健師である。また、「地域における保健師の活動に関する指針」においては、「地域をみる」「つなぐ」「動かす」



会長あいさつ

こと、予防的介入の重視、地域活動に立脚した地域特性に応じた活動の展開が保健師活動の本質であると提示された。が、これは先輩たちがずっと言つてきたことであり、保健師活動の本質は変わらないと感じた。

保健師活動を続けたことで、自分の健康づくり・生き方につながり、多くの出会いや人間関係の貯金ができたし、それが大きく、めげそうになつても踏ん張れることができた。落ち込むことが多々あった。落胆することもあつたが、元気の出る魔法の発見から、三つに絞つた生涯のテーマと出会うこともできた。

行政保健師という役割を終え、これから保健師としての生き方の目標は、九十八歳を目標に、人のお世話をしない「一人死」・元気の出る魔法使いを目指して過ごしていきた。出来るだけ介護保険を利用することなく、一・二期生の先輩方のようないい生き方、健康長寿を目指し、人のお世話をしない生き方、自立した市民を目指す。他の誰かのため、地域のための活動や、健康づくりの楽しさを笑いと共に広めること、趣味である「ワイルドフラワーオーチング」という分野を創設したい



医技短2期生の皆さん



S41年卒の皆さんによる『花は咲く』

と語る。『私に何ができるのだろう』という熱い思いを語られた。また、森氏は、私の原点は、父の研究心と母の丸ごとの愛さまのようだ。大学の時に出会った十島村の看護師の姿に衝撃を受け、『私が何ができるのだろう』という思いから、研究の第一歩がはじまつた。研究を通して、島を知り、地域を知り、フィールドを大切に思う心を育てられた。

現在、教員になり、恩師、先輩保健師、学生からたくさんの学びをしている。中でも心に残っている言葉として、実習を終えた学生から出た言葉『保健師は、一生、保健師』『保健師は、冒険家』を聞き、学生の感性の素晴らしさに感動。また、保健師養成課程の選択制導入の動きに対し、何もできずに落ち込む自分に、『あなた、ピンチはチャンスやで！いつまでもクヨクヨしてもあかんで！』と恩師より声をかけられ、しおさい会を中心とした、次なる活動へとつなげることができた。この活動を通じて、自分にとつて、大学がコミュニティであり、学生は住民であり、自分は保健師



保健学科2期生によるクラリネット演奏

(文責 前野)

さい会活動を通して、自分自身が保健師の先輩方と交流を持つことでの学びがとても大きかった。この鹿児島で、学生と社会人、先輩たちがつながることができるれば、きっともっと面白くなると思い、平成二十五年三月、Facebookを立ち上げ、活動している。

として活動することができる。昨年度までの県看護協会保健師職能委員の活動や、しあわせな会活動を通して、自分自身が保健師の先輩方と交流を持つことでの学びがとても大きかった。この鹿児島で、学生と社会人、先輩たちがつながることができるれば、きっともっと面白くなると思い、平成二十五年三月、Facebookを立ち上げ、活動している。

として活動することができる。昨年度までの県看護協会保健師職能委員の活動や、しあわせな会活動を通して、自分自身が保健師の先輩方と交流を持つことでの学びがとても大きかった。この鹿児島で、学生と社会人、先輩たちがつながることができるれば、きっともっと面白くなると思い、平成二十五年三月、Facebookを立ち上げ、活動している。

保健師として働き始めてから、九か月が経ちました。ここまで悩むこともありました。ですが、先輩方、地域の方々に助けてもらいながらなんとなくやつてこられました。自分が、先輩方、地域の方々の地域が好きで、よりよくしていこうと活動している住民、地域づくりとともに考える先輩の姿に励まされ、刺激をいたしました。毎日です。

5年前まで私は心療内科の看護師として働いていましたが、患者さんとかかわる中で



“お帰り”と言つて もらえるような保健師に

鹿児島市中央保健センター

山田友美（H18年卒）



家族、生活、地域のつながりというものはかけはなせないものだと感じました。そこから保健師という仕事に興味を持ったきっかけで保健師を本格的に目指すようになりました。代替保健師の時に「地域のみならぬ」といふ言葉は、きつかけで保健師を本格的に目指すようになりました。これからも宜しくお願ひ致します。



のだと感じました。そこから丁寧にかかる保健師としての真摯な姿勢」を忘れずに、『一人一人のことを親身に思い、丁寧にかかる保健師としての真摯な姿勢』を忘れないで、いかこれまで出会った地域の方々に“お帰り”と言つてもらえるような保健師になれるよう日々精進していくこうと思います。

結核業務も担当しています。理想の保健師像へはまだほど遠いですが、出会った方の笑顔に励まされながら、先輩たちから学ばせていただいた、『一人一人のことを親身に思い、丁寧にかかる保健師としての真摯な姿勢』を忘れないで、いかこれまで出会った地域の方々に“お帰り”と言つてもらえるよう日々精進していくこうと思います。

これからも宜しくお願ひ致します。

第17回しおさい会総会に参加して

「同窓会」&「クラス会」

八ヶ代 寛子(S50卒)



猛暑の夏も往き、秋の気配がそこはかとなく漂うといいのですが、まだまだ残暑が続いている今夏です。皆さん、いかがお過ごしでしょうか?



S50卒のみなさん

城山最後の入学生であり、亀ヶ原最初の卒業生である私たちも、ついに還暦を過ぎました。そこで、今回の同窓会を機に、「みんなで集まつてクラス会をしよう」と、クラス名簿をもとに有志で手分けして連絡をしたところ、クラス員半数の十一名が集まりました。卒業以来始めて参加という人も数名いました。余興ではクラスの愛唱歌「22歳の別れ」を歌い、当時、流行つていたジルバ・ツイストを踊りました。もちろん、山元・今井両先生も一緒です。一瞬に

が、とにかく暑かったこと、そして桜島の降灰まみれの中だつたことを今でも鮮明に覚えています。

して二十二歳の学生にタイムスリップしていました。

最後に、同窓会の今後の活動の一つに「ホームページの開設」が検討されているそうです。実現すれば、ホームページをおしていろいろ人に逢えるかもしません。同窓会は二年ごとに開催されます。是非また、直にも逢いましょう!!

平成二十五年九月一日 記

第十七回しおさい会 総会に参加して

中迎賢介(H22卒)



大学を卒業してから四年、初めてしおさい会総会に出席した。卒業後は看護師として働いていたのだが、大学へよく足を運んでいた。そこで森先生に声をかけていただいたことが参加のきっかけであった。当初は「まだ保健師として働いたこともない自分が参

加しても良いのか」という気持ちがあった。しおさい会総会当日、参加者は八十代の第一期生の方々から現役の保健学科生までとても幅広かつた。年代や職場背景は異なるが、鹿児島大学出身の保健師という繋がりで、これだけの人数が集まるということはすごいと思った。同窓会などで同学年など横の関係を感じることはあっても、今回のように学生の先生、そのまた先生と世間を越えた縦のつながりを強く感じたことは初めてであった。

総会では保健師活動の話はもちろんのこと、先輩方の保健師になつたきっかけ、印象に残つた事例など幅広く話を聞くことができた。仕事上の上司としてだけでなく、人生の大先輩の方々の実体験や経験則を聞けたことはとてもよかつたと思う。

しおさい会総会に参加する前は、保健師という仕事についてぼんやりした部分もあつたのだが、輪郭がはつきりしました。参加前は戸惑いもあつたが参加して本当に良かつたと感じ

も合格でき、来年度から県保健師としての採用がきました。

今後は保健師の一員としてしおさい会を盛り上げていきたと思う。

しおさい会同窓会 総会に参加して

看護学専攻3年
徳留真美



総会・懇親会に参加したのは、大学で学んでいくうちに保健師という仕事について興味を持ったからです。今回は学生も参加できる貴重な体験であり、先輩保健師の方々との素敵な出会いもあり参加してよかったです。先輩方は「やっぱり地域が大事だよね」とよく口にされていた印象があります。地域の赤ちゃんと高齢者まで幅広く関わりその地域をより良い方向へ変えていくのはとても大変なことだと思います。一人一人がその人らしく生きていくためには、



S51 年卒のみなさん

地域の中の一人として、地域も含めた働きかけをしていく事が大切なだと改めて感じました。現在、病院実習をしていた地域の中に暮らす人々が再び地域に戻るということについて身をもって感じており、地域の中の一人として考えていく事が大切だと考えるようになりました。

懇親会の余興では昭和五十年卒の方々と一緒に青春時代を歌う機会をいただきました。学生というまだ未熟な立場ではあるけれど、学生だからこそできることがある。学生でも人を動かし、心を搖さぶることができたと感じ、もつと学生という立場に誇りをもち今しかできないことをし、いろいろな人と語り合い発信していくべきだと強く感じました。保健師と

学生時代、しおさい会での先輩方の姿や母校への愛情を聞き、感銘を受けていた私は、熱く語る先輩方の一番の印象です。そして会全体を通して語る先輩方の絆は深く感銘を受けましたが、特に「ここには縦のつながりがありま

す」という言葉が印象的でした。世代は異なれども互いの



しおさい会同窓会 総会に参加して

挽地ひろみ(H25卒)

いう職業は誇りあるものであり、知れば知るほど魅力というものを感じます。このような機会をいただき本当にありがとうございました。

先輩方が地域や同窓生と築いてきたつながりは出会いとしてだけでなく「思い」のつながりであり、だからこそ一つひとつが積み重なつて元気な語りとしてここに溢れているのだと感じました。私も一員となり参加し、思いを交換し合える場の雰囲気に看護を感じました。

最後にある先輩が、私の話を受けてご自分の経験を話して下さり、私は励みと先輩の思いを受け取った気がしました。現在、私は看護師1年目です。まだ目の前のこと精一杯ですが、参加を通して「専門職としての役割は果たしつつも人として色々な方と関わり、先輩方の様に誇りを持つて語れるぐらい、人・地域と向き合っていきたい」という

窓生である先輩方の絆は深く感銘を受けましたが、特に「ここには縦のつながりがありま

す」という言葉が印象的でした。世代は異なれども互いの

話を興味深く聞き、受け入れ、そして言葉にするという様な場で「未熟でも良いから、自分で表現しないと」という先輩の一言が雰囲気を表していました。また、保健師を続けて良かったことに「人間関係の貯金ができた」という話がありました。先輩方が地域や

奄美大島の南西部に位置し、年間を通して温暖な気候で、平成二十五年四月一日現在で人口一、八九六人、世帯数一、〇三八世帯、年間出生数が十五人前後、高齢化率三六・八%の小さな村です。村内では、黒糖焼酎「れんと」が有名な奄美大島開運酒造や、やけうち湾のおだやかな入り江を活かした各種養殖業が主な集落行事が現在も受け継がれており、「子は宝」、「結の心」の精神は、子を地域全体で大事に育てるというような暖かく心豊かな字検村民の人柄をよく表しています。

川畑美由紀(H21卒)

鹿児島県宇検村

職場訪問



浅尾晋也さん

川畑美由紀さん

仕事内容は、母子保健・精神保健・成人保健等の保健事業を中心に行っており、課長や係長が健診の送迎係をすんで行うなど、保健福祉課全員が一丸となつて宇検村の健康課題に取り組んでいます。私たちの職場もあり、生活の場でもある宇検村は、コンビニやスーパーはあります。私たちが勤務する宇検村は、コングンが、タエン浜海水浴場や湯湾岳といった大自然の恵みと人の温かさが本当に癒しを与えてくれる素敵なところです。このような地で働くことを幸せに感じ、感謝しながら今後も保健師として村の皆さんと一緒に「健康なむらうけん」を目指して取り組んでいきたいと思います。

前会長のあいさつ



梅木 秀子

「しおさい会」の皆様、
希望に満ちた新しい年

をお迎えのことと存じ
ます。平成二十五年八

月三日の第十七回総会

にて会長職を、藤野瑠美さん（昭和四十六年卒）

にバトンタッチいたしました。

偉大な山元先生のあとを引き受け、私には荷

が重く緊張しましたが、役員・会員特に先輩方

のご支援や励ましのお言葉を頂き、全うできた

と感謝しております。

私共は、大人としてのスタート時に、保健師
の道を選び、学び、仕事に就き退いても地域や
家庭の中でその力を發揮できるのも幸せなこと
だと思います。その間先輩や後輩、母校は一生を
通して繋がっています。これが「しおさい会」

であり、拠り所になつてていると思います。

今後の課題として、

①会員の声を反映した会の運営

②クラス連絡委員会のあり方の再考

③保健学科同窓会との繋がり
④保健学科の保健師養成について見守つていく
⑤役員が楽しく意義を感じる会にして欲しい
などを考えます。

若い会員が増え、素晴らしい発想と行動力で
未来に向かつて歩む「しおさい会」。会の発展
が感じられる明るい気持ちで退任しました。今
振り返れば楽しく充実した八年間でした。今
これからは一員として出来る限りのことを
していきたいと思います。ありがとうございます
した。

(文責 前野)

編集後記

しおさい29号はいかがでしたか。お忙しい中、快く執筆に
ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます

現代は情報化の時代です。ホームページの開設についても
議論されていますが、管理について考えると、なかなか簡単
には進みません。

また、名簿管理についても、個人情報保護の観点から、新
入会員については簡略化したものを作成することにしまし
た。

様々なご意見があられると思いますが、今後も繋がりを
大切にした同窓会を目指していきたいと思います

新入会員紹介

平成25年 鹿児島大学医学部保健学科

看護学専攻卒業生 しおさい会入会者



第6回しおさい会セミナーご案内

「地域看護のおもしろさ・しんどさ」

～出会いは理解の第一歩～

講師 元 鹿児島県 保健師
現 福島県富岡町 保健師

合田 マリ子さん (S50卒)

日時 平成26年5月31日 (土)
10:00~12:00 (受付9:30~)

場所 鹿児島大学医学部保健学科
教育棟4階実習室

学生に保健師の素晴らしい醍醐味を伝えたい!
多くの会員の皆様の参加をお待ちしています。
参加希望の方は5月15日までに
表紙の事務局まで連絡下さい